

小泉八雲と新宿区

生い立ちをたどる

小泉八雲の生涯

1850年	ギリシャ・レフカダ島でアイルランド人の父とギリシャ人の母のもとに誕生
↓アイルランドへ	
1852年(2歳)	資産家の大叔母、サラ・ブレナンの世話を受けるようになる
↓イギリスへ	
1863年(13歳)	イギリスの全寮制学校に入学
1866年(16歳)	友人との遊戯中に事故で左目を失明
1867年(17歳)	大叔母が破産。学校を中退
↓アメリカへ	
1869年(19歳)	シンシナティで生涯の父と慕う印刷屋ヘンリー・ワトキンと出会う。彼から仕事を教わり、その後出版社に入社
1874年(24歳)	出版社で正社員になる。下宿の料理人アリシア・フォリー(マティ)と結婚
1877年(27歳)	マティとの結婚生活が破綻。ニューオーリンズに移り、執筆に専念
1884年(34歳)	ニューオーリンズ産業綿花百年記念万国博覧会で、日本館に興味を持つ
1887年～1890年(37歳～39歳)	マルチニークに取材旅行で2年間滞在。ニューヨークで読んだ英訳『古事記』等の影響で来日を決意
↓日本へ	
1890年(40歳)	島根県尋常中学校・師範学校の英語教師として松江へ
1891年(41歳)	後に妻となるセツとセツの養父母を伴い、熊本県へ。第五高等学校に転任
1894年(44歳)	日本に関する最初の著書『知られぬ日本の面影』を出版。神戸クロニクル社に転職。神戸へ
1896年(46歳)	セツと結婚。帰化し「小泉八雲」と改名。東京帝国大学の講師に就任。上京し、市谷富久町(現在の富久町)に住む
1902年(51歳)	大久保の新居に移る
1903年(52歳)	東京帝国大学講師辞任
1904年(54歳)	早稲田大学講師に就任。『怪談』を出版。9月永眠

本名はパトリック・ラフカディオ・ハーン。



八雲とセツ
提供:小泉家

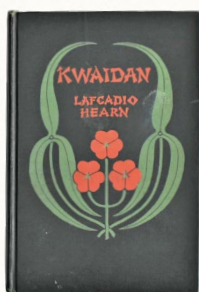
新宿区ゆかりの作家で、日本研究家でもある小泉八雲。9月には、セツ・八雲夫妻をモデルにした連続テレビ小説「ばけげん」の放送が始まりました。今号では、八雲の足跡をたどる、さまざまな方法を紹介します。

☎区政情報課広報係☎(5273)4064

縁をたどる

新宿区と小泉八雲のつながり

1896年(明治29年)、東京帝国大学の講師となった八雲は、市谷富久町(現在の富久町)に転居しました。その後、1902年(明治35年)に大久保村西大久保(現在の太久保)へ転居。37年には代表作となる「耳なし芳一」「ろくろ首」「雪女」などを収めた『怪談』(右写真)を出版するも、同年に心臓発作により死去しました。3面では、区内の史跡として、富久町にある旧居跡のほか、大久保にある小泉八雲記念公園、終焉の地の石碑を紹介しています。



講演と朗読で作品をたどる 小泉八雲朗読のしらべ 「へるん先生傑作選」

日時 2月23日(祝) 午後2時～4時30分

会場 四谷区民ホール(内藤町87)

参加
無料

新宿には、近代以降さまざまな文学者や芸術家、学者等が暮らし、創作活動や交流を行いました。明治の文豪・小泉八雲(ラフカディオ・ハーン(へるん))もその一人で、この地で後世に残る作品を世に送り出しました。今回は、そんな八雲の作品の魅力や、八雲と新宿とのつながりを紐解きます。

★古住区長が5月にギリシャ・レフカダ市を訪問した際の映像記録も上映します。



小泉八雲のひ孫で民俗学者、小泉八雲記念館(島根県松江市)の館長でもある小泉凡さんが、第2部で朗読される作品等について語ります。



佐野史郎さん(俳優)と山本恭司さん(ミュージシャン)が「水飴を買う女」「むじな」「耳なし芳一」等の作品を音楽と共に朗読します。



小泉 凡



佐野 史郎



山本 恭司

☎はがきかファックスに5面記入例のとおり記入し、1月30日(必着)までに問合せ先へ。定員350名。応募者多数の場合は抽選し、結果は2月6日(金)以降に応募者全員に郵送でお知らせします。新宿区ホームページ(右上二次元コード)からも申し込みます。

☎文化観光課文化資源係☎(160-8484歌舞伎町1-5-1)

☎(5273)4126・☎(3209)1500



生誕地とのつながりをたどる

新宿区とギリシャ・レフカダ市との交流

区は、八雲の生誕地であるギリシャ・レフカダ市と平成元年10月に友好都市であることを宣言し、児童・生徒の絵画作品などを通して交流を続けています。

令和6年から市民交流を開始し、10月には市長と市民等を招き、八雲をしのぶとともに文化・歴史を体験してもらいました。今年の5月には吉住区長と区民等が同市を訪問し、現地の市民と交流しました。来年もレフカダ市民等を区にお招きする予定です。

☎多文化共生推進課多文化共生推進係☎(5273)3504



市民・区民同士の文化交流



新宿区役所を訪問した
レフカダ市の皆さん



レフカダ市庁舎を訪問した
吉住区長



校庭で歓迎してくれた
レフカダ市の子どもたち



レフカダ市の子どもたちの合唱

筆跡をたどる

新宿歴史博物館「大がらす通信」

同館では、八雲のアメリカ時代の恩人、ヘンリー・ワトキンに宛てた書簡やメモ等を所蔵しています。書簡には、ワトキンが八雲に付けたニックネーム「The Raven(大がらす)」にちなんで特徴的なからすの絵が署名代わりに添えられています。この書簡は同館の公式X(右下二次元コード。HPhttps://x.com/regasu_rekihaku)で2月末まで毎週紹介しているほか、同館の常設展示室で3月ごろまで展示しています(休館日を除く)。



☎☎新宿歴史博物館(四谷三栄町12-16)☎(3359)2131



常設展示の様子(展示替えあり)



ワトキンに宛てたメモ



ワトキンに宛てたカード

区内の史跡をたどる

小泉八雲ゆかりの 施設・文化財



八雲の胸像



特徴ある
園内



史跡の説明看板

小泉八雲旧居跡

八雲が上京してからの約5年間住んでいた場所です。小泉八雲終焉の地(下記)とともに新宿区指定史跡に指定されています。※現在、工事のため、石碑等はありません。

【所在地・アクセス】

富久町7-30、東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅から徒歩8分

小泉八雲終焉の地

八雲が晩年に居住し、亡くなった場所です。大久保小学校の正門脇に、旧居跡と同様に東京八雲同人会により八雲の生誕100年を記念して石碑が建てられました。碑文として八雲の略歴・功績をたたえる内容が記されています。

【所在地・アクセス】

大久保1-1-17
都営大江戸線
東新宿駅から徒歩5分



大久保の旧居 提供:小泉家



並んで建つ石碑